

## 第3部 「こえの博物館」編

大牟田市による平成13年度～14年度の取組み「こえの博物館」事業として熊谷博子氏を監督とした110時間に渡る取材映像が存在し、平成15年度に映像作品群が完成し、さらにその映像をもとにした監督作品「三池 終わらない炭鉱の物語」が完成している。

今回はこれらの記録映像の1コマのテープ起こしを実施し、インタビュー趣旨に従って若干の編集を加え、再構成した。このインタビューの聴き手（記者）は、映像の監督である熊谷博子氏。話し手は角春日さん、古川弘さん（第2部の聞き取り編の話し手と同一人物）、竹川一正さんの3人。この冊子ではそのインタビューを一部編集のうえ、掲載した。また（ ）によって解説を加えている部分がある。

記者：熊谷博子さん

話し手：角 春日さん、古川 弘さん、竹川 一正さん

## 仕事の概略と経歴(角さん・運搬)

角さん

私は運搬<sup>\*</sup>です。まず入社は養成工<sup>\*</sup>で、2年間養成工で勤めて、2年間は坑外の事務所におりました。それから昭和24年から運搬工一筋です。運搬は、まず人を運ぶんですね。それから、それが終わったら石炭を運ぶ。それから材料を運ぶ。その仕事の主ですね。一応、人車が仕舞えたならば、各材料とか石炭とか運んだり、もちろん人力やなくて機械で運びますから。電車の運転手、あるいは車庫の操作、そういう仕事です。現場と違って、ほとんど空気のいいところで一応仕事しますので、中には細部に渡って作業する人もいたけど、その場合はやっぱり、高温なところもありました。まあ、作業服を着ては、ちょっとされないような暑いところもありましたから。そういうところであると、じゅっくりなって、ちょっと過酷なところもありました。そういうような状態でしたですね。

坑底に下がってから、現場で働く人たちを乗せる人車があるわけです。それに乗ってもらって、運転手が引いていくわけです。現場に着いたなら、そういう人たちは皆降りて現場に行くわけでしょう。そうすると、また折り返しに、坑底に来るわけです。普通、中段(ちゅうだん)、中段って言ったから、引っ張って、坑底から降りたところからですね。斜坑を降りてから。それから仕事は運搬工本来の仕事になるわけですね。人車に作業員を乗せて、大体一番奥までが約5,000mありますから、そこまで牽引して、降りてもらって、それでまた坑底に引き返すわけですね。

それぞれ運搬工もその中におらっしゃるから、各自分の持ち場に行って、それぞれ作業するわけですけど、材料を運んだり、石炭を

運んだり、巻き上げ……ほとんど巻き上げですね。それで作業するわけですね。それと、石炭がベルトで、シュート\*ってところがあるわけですね。そこに集約したやつ、シュートに入れたやつを炭函\*(たんがん、以下同)に積む人は別にいるわけですよ。採炭の方から来てですね。それを運搬がずっと引いていくわけですね。24両ですか、石炭を坑底まで持っていくわけですね。それは電車の運転手の仕事になるわけですね。すると、巻き立てで仕事をする人はまた別にいるし、ほとんど材料を運搬する作業ですね。大体そういうことが主な仕事ですよ。運搬の仕事はですね。

いのうたり(担ったり)、引いたりするっていうことは大体ないわけですね。皆、電車でほとんどしますからですね。その中には、リールカー\*とか、キャプタイ\*を引いた電車があるわけですね。エンドレス\*にかけて操作したり。ずっとついていくわけですね。ついて行かんとできんですね。その横をずっと一緒に行って。クリップってところがあるわけですよ。牽引……エンドレスにかけてですね、引いていくとか。ワイヤーロープがこう通っておれば、これ、引っかけて、その力で材料とか石炭とか引いていく箇所もありましたですね。

有明に行ってから、そういうことはほとんどありませんでしたね。ほとんど集約ですから、シュートで。5トンやったですね。有明の場合は、それ積んで、三川のシュートに落とすわけですね。後はまた、三川坑の運搬が、その石炭を持っていくわけですね。

段差があるわけでしょう。有明は230mだからですね。三川坑は350mでしょう。その落差があるから、そこに大きなシュートを造ってあったから、それに有明の石炭を、そこに、シュートに落とす。三川は三川でそれを持っていきよったわけですね。

宮浦坑の場合は、ここまでベルトで上がってきておったけんですね。電車で持って行って、電車を……持っていったら、シュートで炭函を返して、ベルトに移して、持って上がってきたからです

ね。そこはもう、機械の仕事だから、運搬の仕事はそこまでです。

それで、こまいこともいろいろあるけども、大体おおまかな仕事はそういうような仕事やったですね。単純ですね、仕事は。だけど、巻き立てなんかで材料を入れる場合は、やっぱり注意せんと、炭函に挟まれたり、やっぱり事故につながるから。十分注意して仕事は皆しておったですね。

## 仕事を始めた頃(角さん・運搬)

記者

炭鉱に入られたのは、周りがそうだったから入られたんですか。

角さん

そうですね、私は2年間、体がもちろん小さかったからですね、2年間養成工で、2年間は坑外で養成工として働いたでしょう。それから2年間は坑外に、事務所においてですね。まあ、生活の問題もあるわけですよ、兄弟も多かったから。で、どうしても採炭とか、直接は自分にはちょっと……体が小さかったから、向いていないなと思ったから。運搬ぐらいならいいじゃないかあ……ということで、運搬に配属してもらったですね。

別に、運搬がいいとか、機械がいいとか、採炭がいいとかじゃなくてですね、体が小さかったから。その時点でですね。運搬を希望したわけです。

記者

実際、なさってみてどうでしたか。

角さん

そうですね、まあ、運搬一筋で定年まで無事勤めたんですけど、採炭なんか……そうですね、日曜日なんか炭函調査に行ったときなんか、払<sup>\*</sup>を当たったことがあるんですけど、途中まで行って、向こうまで……大体 100m払かな。

途中まで行ったことがあるわけですよ、払の中を。そうしたら、やっぱり怖くなって、戻ろうかなあと思ったけど、戻る分だけ先さん行けばいいからということで、行ったことがあるけどですね。本当にやっぱり、相当に気合を入れんと、そういうような仕事はできんとやなかりかなあと思うたからですね、募集のあったとき、申し込もうかなあと思ったけどですね、やっぱりお袋が、ちょっとやめてくれというようなことやったけんですね。そのまま運搬工で定年を迎えました。

## 初めての坑内の印象と坑内環境(古川さん・山野と三池・掘進と採炭)

記者

初めて下がられた印象はありますか。

古川さん

ええ、やっぱり最初(山野炭鉱)の印象っていうと、今でも忘れんですよね。実習の時から、採炭するために、火薬を仕掛ける前に穴を掘る穿孔作業があるわけですね。その作業の機械が、あの当時はジャック・ハンマー<sup>\*</sup>っていったんだと思うけど。現在ではレッグハンマー<sup>\*</sup>とか。結局、圧縮した空気を利用した動力系でして。それが音がひどいんですよね。だから、実習なんかの時は、指導員とそれから子供みたいのが4人ぐらい、ずっと押してですね。結局、人間の押す力で穴をずっと掘っていくから。で、その穴が大体1m～1.3m掘った時点で、また別の穴を掘る。それに火薬を仕掛けて、

石炭の層を粉砕して、石炭を採っていくわけだから。その機械なんかがすごかったから、音がですね。だから、ちょっと考えられないけれども、その機械を押していく作業をしながら、誰か1人、大きな声で歌を歌っていても分からないんですよ、他の機械の音で。だから、坑内で働いていた人は、塵肺もちろんですけども、耳の悪い人も比較的いたんじゃないかと思いますね。

私は、当時入坑するとき、排気坑道\*に人車坑道があったものだから、そのままにしておく、入気と排気と分からないし。その、排気坑道のちょっと入ったところの上に、大型扇風機があって、そこの排気をずっと、吸い入れていたからですね、そこに鉄の二重門があって、そこは圧搾空気の動力でないと開けられなかったんですね。その機械が、閉まる時とか、開かるときの、大きな音が……その頃、14歳の耳にはよく響いて、やっぱり恐ろしかったですね。音そのものが。作業……結局、落盤事故とかああいう作業よりも、その音がやっぱり最初は恐ろしかったのは今でも覚えとるね。

記者

においとかはどうでしたか。

古川さん

においは（笑い）……

角さん

においは全然違うですね。

古川さん

初めて下がったときは。においが……。入気坑道\*ではさほど変わらないんですね。排気坑道になると、もう、坑内をずーっと、入

気坑道から、坑内全体を回ってきた、それが今度、坑外に上がる前の、排気坑道のおいというの、大体、人道は排気坑道が多いからですね、そこに入った時点で、もうにおいがコロッと変わるから。湿度の高い、カビ臭い……実際、坑内、排気坑道の湿度の多いところは、天井からずーっと綿状のやつがぶら下がっているところがあるから。木材についた一種のカビ。結局、キノコ類のようなものかな。薄い、ヒラヒラヒラヒラしたのがあってですね。それが排気と風にユラユラしよるのがですね、1人で坑内の暗いところに行くときに、それはやっぱりいい気色はしなかったですね。

だから、そのにおいはやっぱり現場の人は忘れないんじゃないですかね。

角さん

独特のにおいですね。慣れると何ともないようになるんですけどね。もういっぺん、ちょっとにおってみたいようなにおいですね。日本百名酒の1つに入れたいようなにおいです。

古川さん

独特ですね、坑内のにおいは。

## 経歴と坑内現場の状況(竹川さん・仕繰)

記者

どうですか、今の話を聞いていらして。

竹川さん

分かるところ、分からんところあります。私は有明に入ったのが事故のあった年に入ったっです。それで有明の事故がなかった場合は(事故がなければ1月に入る予定だった、という意味と思われる

る)、その1月やった、1月の18日やったですね。そのときに大雪が降って、大牟田の町はもう大変なことになって。その後に、1月に入る予定やったのが、2月が保留になって3月に入ったわけですよね。そして、試用員（しょういん）期間って言って、今お2人がおっしゃられた2年間の、何って言いなはったですたいね、養成工、そういう働き手として試用員期間とって、3カ月の見習い期間があるわけですね。先山\*さんについて、という。そのときに私が最初に配属されたところが掘進\*やったです。

それから、掘進の仕繰\*をやったんですね。それが終わって、私の仕繰の方に回されたわけですよ。私の仕繰っていうことは、結局、何っていうんですか、人車から降りて、現場に行く道中の、今言いなはった、杵\*と杵の間に、ずっと当たり\*を付けていくわけですよ。天井からこぼれてこんようにですね……補修作業ですか。そういうのとか、レールの補修作業とか、最終的に私がしやすいように、結局、仕事を進めていく仕事やったんですね。それから三交替\*に行きまして、今度は動杵\*の据え付けとか、動杵の解体とかっていう風な作業の方に回されたわけですね。

そうして一番最後は、何年やったですかね……60何年ぐらいやったですかね、4、5年入ってからやったけどね。……途中で人員整理になったわけです。それで、昔なら辞めんところが、いっぺんにボーンと辞めていったもんで、会社が歯止めかけたわけですよ。こげん辞めてもらうと炭鉱の方が困るということで。それで、私の方の人たちが少なくなって、そこで一応、もう仕繰という仕事をなくして、私とか掘進の方に、最前線の方に人員を求めるようになって、私は採炭の方になったです。

私が入ったのが、雪の降った、事故のあった後に入りまして。開発と仕繰……開発に3カ月の試用期間と、それが終わって採炭の方に回されて。採炭仕繰……今ここで話が出ましたが、採炭の仕事というと、二度使用坑道って言うて、採炭が行った後、行く前の、こ



うちに進んでくる前の方が、どんどん潰れてくるわけですね。そこをタヌキ穴って言って、タヌキの巣のような状態になるので、そこを広げて、空気の流通をよくせんと、私の人たちが暑いわけです。そこで、もう、座ったなら座ったぎりの作業とかになって、そういう仕事が一番きつかったですね、仕繰の場合は。

## 動枠の立て付けと撤去(竹川さん・仕繰)

竹川さん

三交替仕繰になってからは……何って言うんですか……動枠の立て付け、撤去をやったから良かったですけど。その動枠の据え付けの場合は、入気坑道から入れて、排気の方からずっと順番的に据えつけていって。今度は、その枠を撤去する場合は、密閉されたところで、余計な風は他のところには送らん、採炭の方が優先ということで。結局、密閉されたようなところで仕事するもんだけん、ものすごく暑かわけですよ。

そこで、今度は逆から持ってくるわけですね、枠を出すときは。アングル車道<sup>※</sup>って言って、そういうの上に乗せて、ウィンチで引っ張って、炭函とか、あるいは平台車があったですもんね。そういうのに載せて、坑外まで上げよったんですよ。それが、もう一番最後頃になるぎっと、全部の(動)枠ば取ってしまわんとでけんもんでですね、柱を……今言いなはった、レールを持ってきて、先に鉄柱で打って、鉄柱を回収……それで、全て回収せんなんもんで。そこに今度は、「からこ<sup>※</sup>」(空木積<sup>※</sup>のことと思われる)とって四角いのを幾つか作るわけですよ。そして天井を支えて、天井にきれいに当てて、それからレール持ってきて、レールで、水圧鉄柱<sup>※</sup>で上げて。その、水圧鉄柱を上げたのを、今度は撤去するために、坑木で支えて。最終的にはそこを、網を張って密閉状態にして、そこで私が終了するわけですよ。

それで、採炭になってからは、今言よんなはった、金木(きんもく、天井を支える梁の杵が鉄製、その梁を支える脚の杵は木製という意味)でいうところ。私たちがしたときはもう金金(きんきん)になっていたですよ。金金て言うのは、脚もレールで、天井も金ということですよ。それで、払面(ゲート面のことと思われる)が1,000mちょっとぐらいあったでしょう。進んでくる方がですね。そうすると、大体150m払やったですよ。そこで、やっぱりえすかったつは、今炭壁返りって言よんなはったけど、私たちがえすかったつは、杵ば移動して、杵を、「抜柱」(ぼっちゅう)ち言うて、下げるわけですよ。そのときに天井からボーンて、畳1枚といわん岩の、つっぽげてくるときのあつとですよ。そのときにもう逃げ場ば失うたなら、もう、命失うか、障害者になるかどっちかという。

そうすると、そこば補修せんぎつと、前さん進まれんわけですよ。なんか、そこに、自走杵\*の上の方がつかんもんだけんが。それで、そこに坑木とか何とか並べて、地獄っていうごたる。そこです、仮天井を作って、それから杵を出して進んでいくという。そういうことになったら、一方は炭は掘られんという風な感じで。二方ぐらいかかって修正して、それからまた進んでいくというようなこともあったですよ。

## 炭鉱と他の職場との違い(竹川さん・仕繰)

竹川さん

それで、私は、前の会社を辞めて炭鉱に入りました。4人子供を持っておって。多分、多かった方やろうと思うんですね、53(歳)で4人っていうことは。それで、どうかして食べていけないかなんということ、結局炭鉱にはまったとばってんですよ。

記者

そうすると、前の仕事と比べて、炭鉱の仕事っていうのは。

竹川さん

それで、炭鉱に行ってから、こげんもらってよかつかなって。自分はほんなこて、こげなもらうほど仕事ばしたんだらうかっていうことが、半信半疑っていうんですか。自分に対しての、(仕事を)しきらんと対しての報酬だったけんから、こげんもろてよかつたらうかって、最初は思ったですね。

やっぱ、一番敵は、暑かったやつが敵やったっでしょう。上で暮らしよつと風とか何とかあるけど、冷たい風ちがなかつですよ。もう、ほとんど排気の、払にって、今話しよんなはるが、私は終端\*の方が好いとったけん。で、終端ばかり大体専門にしよった。終端っていうのは、温(ぬく)かですよ。落て口で機械の1つあって、熱を持った風がずーっと払の跡……そうすると、払の跡そのものが、今度はまた温(ぬく)かわけですよ。そこを回ってきた風が、終端の方に流れてくるもんで、そうすると、ゴミはするでしょう。入気坑道からカッター\*で切っていくと、水はかけよるが、粉炭\*的な、ゴミの、どんどん流れてきて。もう、自分が手もこげんして見えんちゅうごたる状態の時もあるですもんね。

それで、一つ、入社するときに言われたつが、「煙草は吸うかい」って言われて、「はい、吸うです」。そうしたら、どけ勤めとったかいて言われて、ちょっと製作所で……なら、煙草を吸う人と吸わん人は鉱長が、給料面で違うやろうと。何でって、こっちは思うたんですよ。そうしたら、煙草吸う人はそこで……何って言うですか……操業時間も煙草ば吸うて休憩ばしよるじゃなかかと。ぼってんが、煙草吸わん人はずーっとしよつとじゃなかかっていう、そういう観念の違いちゅうんですかね。そういうのがあったですね。

あと一つは、自分がなんかあったときには、自分で対処せんと、暗うして、誰がどこにおいて、どげんか風な配置で人間が仕事しよっていうことは分からんけん、人が来るまでは自分で自分の手当てはしなさいということ……。こういうこと言うとおかしかつかも

しれんけど、大体サラシば巻いとるか、私たちのときは女性用のストッキングを持っときなさいというようなこつは言われてるんです。

それと、暗すぎて、電気消して、「ワフ」というて脅すなということね。ショック死するから。誰もおらんとつとに、電気消しとつて、にやがりよつて、向こうから友達の来たけんが、「ワフ」というと、そういう例もあると。だから、そういうことはしてくれるなと言われてて。そうすると、自分ば一番守つとは水と。それで、絶対に坑内から坑外に上がるまでは、水を捨つつといかんと。何か途中であつたちゃ、水のあるなら、どんくらいかだけは生き延びられるけんから、水だけは捨ててくれるなつて言われたことのあつたですかね。

## 炭鉱で教えられたこと(竹川さん・仕繰)

竹川さん

ばつてん、今考えると、炭鉱んごと良かったところはなかったです。私は。はい。

炭鉱で教えられたやつは、かなりあるですよ。(炭鉱が)潰れてから仕事ばしよるけどですね、やっぱ、人間関係ていうのがものすごくあつて。する人、せん人、好きな人、嫌いな人ていうのがあつたですよ。そうすると、先山で任せられたぎつと、任せられたしこの仕事はせなあかんとですよ。それが、もう人が動かんなら、自分でせんならでけんです。そういうのは上に上がつても、勉強にはなつたなと思うですよ。

やっぱ、頭に行く人は順繰りで行くも、仕繰あたりはそういうの、あるにはあるけど、やっぱ、払とか掘進になつた場合は、もう固定

された人が頭ですもんね。結局、この人に寄ると、係員よりも詳しくかっていうような人が、大体長年の経験とか、そういうのが一番の、会社にとってもあれやったでしょう。

何っていうか、話は違うかもしれませんが、入社したときに、「あんたたちは何十万の仕事すつとよかつよ」って。係員も何十万でよかです。係長あたりは何百万、課長は何千万、ばってん鉱長は億っていう仕事ばせんとでけん。……て言われたのが、炭鉱に入ってからやったですね。

それは何だかなと後から考えたら、結局、けが人とか、死人を出さんために、鉱長あたりは努力ばせんといかんとで、それでお金に換算すつと、補償とか、そこの現場が止まるとか、そういうので、億っていう金ば稼がんとでけん、と言われたつかなど、私は1人考えたですよ。

私たちは、へいへいの下っぱやったけんがら、炭ば掘りゃ、その炭のカット数だけで頭割りしてなんぼっていう、そのお金をもろとったけんがら、そこまで言われたときには、あぁーと思たですもんね。

## 坑内の第一印象(竹川さん・仕繰)

記者

最初に下がったときはどんな印象……。

竹川さん

その時入ったのが10人ぐらいやったですかね。一緒に入った……。そして、保安の係長からずっと連れていかれたんですよ。そのときは、1回目に入ったときは……何ちゅうですかね……きれいかとこかばっかり見せていきなはるわけですよ。結局、辞めてもらうと困るっていうか、どこの会社も一緒かもしれんけどですね。

だけど、排気道とか何とか、現場近くになってくつと、「整理整頓」とは書いてあるが、実際の整理整頓ではなかわけですよ。もう、使いよかどこに何かあるっていうような感じで。だから私たちの、一緒に入った人は、その日には辞めんやったが、その日に辞めた人もおるわけですね。炭鉱っていうのが、今言いなはったように、入気と排気の、格差のものすごかあるですもんね。そこでやっぱ、においとか、あったじゃなかですかね。

やっぱそこに得手不得手じゃなかけど、合う、合わんのあって、自分にはやっぱ、人間としてそこはちょっとというごたる風な人は、辞めてったんじゃなかつかなと思うですけどね。

古川さん

せっかくいいにおいっちゅったつに...(笑)。

角さん

慣れやね。慣れですよ。

竹川さん

そうですね。その慣れも、時間のかかるでしょう。そこまで行くためにはですね。全てに対しての……何っていうんですかね……シヤバっちゅうか、丘で働きよったっちゃあ、最初、鳶のような仕事ばするきつど、やっぱ、最初はえすかばってん、そいつが慣れてくりゃ、もう怖くない、もうそれが当たり前っていうような、危険性を含んだとこですよ、それは。慣れていうとは。

古川さん

結局、後から入った人が、いろんな職業を経験してきとるもんな。俺たちの場合はもういきなり炭鉱だけやもん。

角さん

俺はそがんしてきてないからですね。別にどうちゅうことはなかったけれどね。

古川さん

そこしか知らん人と、そこ以外を知っとる人の差の、出てくるですもんね。

角さん

いろんな職業、経験してきた人ばかりだから。

竹川さん

それで、炭鉱一筋の人たちは、今はこう、閉山になってからの苦勞っていうとは、並大抵のもんじゃないかなと思うとですよ、私は。こちら2人はどう思いなはるか知らんけど。

角さん

まあ、その人によってはな。

竹川さん

ああ、そうですね。

記者

すぐ慣れましたか、竹川さんは。

竹川さん

食うていかんならでけんっていうことが先やったですね。食べさせんならでけんっていう。そういうので、ああ、辛抱せんならでけ

ん。そばってん、3カ月の試用期間はきつかったですよ。ええとです  
ね、坑道の中は、結局、月に2回ぐらい岩粉\*散布ちゅうて、あ  
るわけですよ。岩粉を撒く。そいつを、1カ所に山積みしてあるわ  
けですよ。それを配列せんなんときが、それが大体20kgぐらい  
やったですかね。そいつを何百mっていうて、担いでいって、また  
戻って、また担いでいって。最初がうちは近かどこにあるけんがら  
良かったばってん、だんだん、その離れたところに置いていって、  
排気坑道とかばすときは、ほんなこて汗びっしょりち、もう、帰  
りの力だけ残しとかんならでけん、ていうようなあれのあるですも  
んね。

古川さん

坑内の、ガス爆発の防止のために、決めたんですよ。月2回。  
それを……。

角さん

粉炭の……。

古川さん

水を袋状にしたと、入れたり。爆発してもその部分で止まるよ  
うにね。で、その岩粉っていうのは、やっぱり岩の粉だから重いん  
ですよ。

竹川さん

力は強うなったばってんですよ。ちっと。ばってん、せんと、ま  
た元に戻るっていうか、人間の習性的なことはあるごたですよ。

**辛かったこと(竹川さん・仕繰、古川さん・採炭及び掘進)**



記者

最初、辛かったですか。

竹川さん

辛かったこと？辛かったっていうとは……暑かところで仕事すつとが辛かったですね。もう……本当に暑かところは、言よんなはったごつガスじゃなくて、温風の吹き出てきよったけどね、解体すつときは。偉か人の回ってきなはるでしょう。「こげん暑かなら仕事されん」って言いよつと、「サウナに行ったって思うてくれんか」って言わしたですもんね（笑い）。ほんなこて暑かところは、ヨダレの出たり、何たりするんですよ。仕事しよつて。犬じゃなかけどです。ね。そうするともう、そこに10分も行つとつきるならよか、もう、通気門<sup>\*</sup>ば開けて、外さんちょっと出ろ言うて、仕事半分、休憩半分っていうような、仕事やってたんですよ。そういうところは、ちょっと……ばつてん暑かつにも慣れたですね。それも慣れやったかもしれんばつてんがらですね。

それで、私たちが入ったときは、安全靴から、全部もう、炭鉱の中では完全装備やっただけじゃろうけど、先輩たちのおんなはるところでは、草履からも順番のあつてですね。安全靴履くとも抵抗のあつたという時代もあつたという話も聞いとりますからね。で、何か一つば変ゆるっていうこつは、どっかに何かの伴うというですかね、そういうこともあつたじゃなかつかなと思う。今の時代もそげんやろつて思うしですね。それで、苦労したというとは、もう、暑さやったですね。苦労というか、きつかというか。

古川さん

湿度が高いし。

竹川さん

はい。それはもう、そこで仕事した人間じゃなかと分かんのですよ。ほんなこて、ヨダレの出るごと暑かごとあるっちゅうこつはなかですもんね。上は。

そしてもう、自走棒だけじゃのうして、レールまで撤去せれて言わると、延々と続いておるけんですな、レールば、今度はいのうて(担って)こんなでしょう。そいつの、炭函のあつとこまでのいてきて、結局、炭函に載せて、そいつばまた上に上ぐるか、払に使うかというような、そういうことばしよったけんですな。

それで、機械化されとつていうとは、もう最前線だけです。後はもう、人海戦。その、いないもん(担ぎもの)がほとんどです。それでも、天井の低かさを鶴はしに打ちかけて、そこに乗るとる3mの坑木ば鶴はしで、自分がこげんなって引きずっていくか、番線できびって、何本要るけん持ってけて言われると。それで、現場に来たなら、昼飯ば食うたなら、何なつとん担いでけて言われよったですな。払の長さに来るためには、何かの必要やけん、そこにある坑木やろが、半割り(坑木を割ったものか?)やろが、そういうのを持ってきなさいって言われよつてですな。

水の多かつたけんですな、長靴に……革靴ちゅうわけにいかないけん。それでやっぱ、水に泣かされたですな。汲み上げてから、その払の始まるまで何日か置くけど、その時の、もう天井まで水の来て、全部パーになつたということもありよつたですな。

古川さん

俺も山野から来て、やっぱり有明が一番水が多かつたですな。やっぱりもちろん、海底でもあるし。三池の場合ほとんど海底ですけども。やっぱり、有明が一番水が多かつたですな。で、質が悪かつたですな。ちょっと塩分を含んでまして。私、山野から宮浦、当時、掘進……ある程度、水の中に足が入つた状態で作業をすることが多かつたんですけども、有明に行って何日目かで、足が痛いから見て

みたところ、ちょっと水虫状になって。水虫じゃなかったんですね。水の関係で。ちょっと皮がめくれたり、穴がちょっと空いたような状態ですね。で、それを人に言うたところが、もうやっぱり、入坑する前に塩を塗っていくといいとか、なんか油状のものを塗っていくといいとか、ワセリンのような。あれを塗っていくといいとか、やっぱり人が言ってあった。

竹川さん

ふやけた状態ですもんね。

古川さん

その足の痛さでいっぺん休んで。そして山鹿温泉にそれで行って見たら、今度は湯に入って、ふっと、適応症を見てみたら、急性皮膚炎はダメ、って書いてあるとよね（一同 笑）。

それだから上がった（笑い）。そういうこともあったですよ。

記者

水はポンプで撤去するんですか、排水は。

古川さん

そうですね。坑底に大きなポンプがあるんです。

角さん

大きなポンプかあったからですね……。

竹川さん

ポンプ座\*だけじゃ、でけんとしてよね。結局、私の進んできよつとに、水のあるきつと、そこ、私の何百mか前ば、1 mなら1 m、1.5mぐらい、まっ角に掘ってから、水をそこに流れるごてするわ

けですよ。そこにポンプ置くわけですよ。そいつを幾つか作るわけですよ。順繰りに上げて行って、そこが払が終えたら、もう埋まって、傾斜した状態で払が……上り状態で来るから、もう、後の水は結局、下さ流れていってくれるばってん、湧き水がもう、そこで取ってやらんとでけんわけです。そうするとそこに1mも、1.5mもずっと、作ろつときゃよかばってん、今度はできあがって、上がるですつときが、木の枠作ってから、炭の入らんごつして。もう炭鉱用語で言うと、ポンプの下が蜂の巣のようになってるわけです。直接のポンプじゃのうして、そこにカバーば付けとるけんから、蜂の巣のような穴を開けとるわけです。そこに今度は、吸うぎっと、そこに石炭の細か……微粉炭じゃなかけどね、そこが詰まって、今度はポンプに取られて、焼き切るつとですよ。で、その掃除とか何とかせんもんで……。やっぱ、そういうところに繰り込まれた人は、ちょっと辛かったろうと思うですね。

角さん

簡単にいくか、というようなポンプやったけんな。

竹川さん

そうすると、三川の方も真空ポンプって、太かつの4台ぐらい、もう払そのものにつんのうて(伴って)来らされたりして、水ば上げよったけんですね。その管理ばするということは、結局、1回そこで、炭でずた袋じゃなかばってん、それに入れて、そこで1回せっきって、ダムっていうとば作るとですよ。で、そこで1回取って、そいつの越えたやつがまたこっちに来るということは良くないことで、もう、2段階、3段階というような水対策は、現場ででんしよったですね。

職種について

記者

そういうのは全部仕繰の仕事なんですか。

竹川さん

仕繰もするし払もするです。払ていうとは、進んで、もう払渡ったときは払の仕事ですが、その、なくすために前もってするのが仕繰っていうあれですね。

記者

それから、写真でも、天井を張ったりしている写真……あれは仕繰の仕事……。

竹川さん

はい、そうです。結局、当たり付けちゅうて、その、もう水のあるけん、さっき言いよんなはったでしょう、ヒラヒラするような。そういうのはもう腐れとつとですよ。新しかうちにはならんとですよね、結局、キノコ類というような、腐れたところでそうなつとるから。そこに上からの岩盤の載つとるわけですよ。そいつがいつあゆる(落ちる)か分からんから、今度は長い棒とかを使って、先に落として、そこをバラして、また新たにこぐみ(木組)というか、そういうので当たりを付けてやって、天井が崩落せんようにするわけですよ。それで、そこには今度は、足場とか何とか、作らんなんけど、ベルトは止むつとでけんいうわけですよ。炭は流さんとでけん。そうすると、一時的には止むるけど、足場を作って一時的には止むるけど、またスイッチを入れて。そうすると止めたとは分かるわけですよ、センターから見つと。やっぱ、そこで高っかけんですね。そこにやぐらじゃなかけど、足場作ってというようなことばして。

そうすると、後どんくらいの長さんとば切れとか、持ってけとかいわれて、結局は、今言うように、仕繰でも頭(あたま)というか、先山さんのおらすけん、先山さんがして、そこで先山、後向き※、助先※(すけさき)とかですね、そういうのがあったから。そういう、最低3人か4人で組んでしよったから、そこでやっぱ、下に注文して、注文受けた者が上の先山さんにやるというような。それで修正していきよったですね。

記者

掘進と仕繰は違うんですか。

竹川さん

違うですね。

古川さん

掘進はあくまでも新しい坑道を作っていくのが掘進で。仕繰はその後の、坑道維持ですね。

竹川さん

それで、材料運搬ですね。掘進が要る材料。結局、脚になる坑木とか、天井にある梁とか、そういう材料運搬ですね。それは、ある程度行ったところは、レールば敷くけど、それが、まあ100mぐらいの時は、まだレールの敷かっとらんけん、いのうていかなんわけですよ。そうすると、1、2の3で投ぐかっていうぎっと、鉄と鉄の場合はもう跳ね返ってくっとですよ。それで、じわっと置いて言われたっちゃ、メーターの、もう45kgとかなるぎっとですよ。ほんなこて、3人、4人で抱えなんわけですよ。それが背の違うぎっと、バランスの違うて、きつかめ遭うもんはずっときつかめ遭わやんごてなるわけですね。それに掘った後の坑道ば支えていく成木

(なるぎ)とか、いろんな、雑木的なそういうのが必要になってくるわけですね。

古川さん

だから仕繰も、掘進のための仕繰と、それから払関係の仕繰って、結局そういう……材料運搬がほとんどなわけね。掘進の場合も大体1 mごとに掘り進んで、今度はそこに枠を張って。で、その当たりを付けて、新しいとこずっと掘り進んでいくけど、一方大体4人～6人ぐらいで作業していく中で、一枠張れば、脚が2本、梁が1本とか、それから当たり付けに、こういう切り張りとか、いろいろ雑木でどんくらい要るかっていうと、計算して、その計算の中でそれに見合う材料を持っていかないかん人が、仕繰ですね。

払の場合は、新しい自走枠を作ったり、設備したり。それから今度は、払が終わったら今度、そういう枠を今度は解体して、また修理とかいろいろ坑外に上ぐるための、搬入、搬出。で、掘進の仕繰と、また払の仕繰、作業が違うんですね。ほとんどは坑道維持の仕繰作業もあるし。

竹川さん

嬉しかつはあれですね、前方(まえかた)がなぐれ\*たときですね。

古川さん

(笑い) なんで？

竹川さん

結局、今日は幾つ行くっていうわけですよ、もう、繰り込み場で。何本切るって。そうすると機械とか何とかの、崩るるわけですよ。そうすると、もうヘッド部とエンド\*部は、もうどんくらいかの仕事ば、そのくらいの仕事ばしてくれとるわけですよ。そこで機械が

崩るぎっと、その払はそこでもう止まるわけですよ。そうすると後方は、止まっとつとば聞いとるけん、ああ、そんなら今日はヘッド、エンドでんがら、こんくらいぐらいはしとるけんがら、俺たちが仕事は、後こんくらいぐらいすつと、もう楽ぞ、というような。そういうときは嬉しかですね。前方の足引っ張るごとある風なあれかもしれんばってん。そんなくらいおろ(少なく)すつとよかわけですよ。ばってん、そういうときは一ちょ余計切ったりとか、もう、自分どんで決めたというよりも、一ちょのカッターの部分だけの払うてくるしこは、余計しとくと、後はもう間違いなかったですもんね。

その代わり、良かったって、天井はそのままで、下から盤膨れ※(ばんぶくれ、以下同)のあるぎっと、梁半分と言わん埋まるとるけんがら、その梁ば取ろでつすつとが、やおなかっ(簡単でなかった)ですよ。結局、電気なら強かばってんがら、電気使うとでけん。電気はもうカッターとか、ロードヘッダーとか、そういうとこだけで、後はもう全部エアーですよ。それか手巻きで、3トンレバーとか、6トンとか、そういうので引っかけて、後に捨つるていうことばしよったけんですね。

そつで、一番嬉しかったのはそげんかこつで。ばってん、盤膨れして、やっぱ、取りにくかっというか。鉄柱でん何でん、ほんなこて先に打つとる鉄柱どま、もう、頭だけ50cmぐらい出とる。抜柱するとき、いかつとつと(埋まっているもの)の方が長かけん、どげんやって取ってやろうかっというこつで。捨つるわけにはいかんですよ。それで、一番最後に私たちが立て付けしかかっつた頃に、一番よか鉄柱は、アルミでできた鉄柱のでけとつたですもん。軽量鉄柱ていうて、炭鉱では言いよつたですな……。そんで、ヤマもだんだん少のうなつて、そういうとば作る会社も少のうなつてきて、後から、もう鉄柱もどげんなつたかも分かん。



古川さん

あの、掘進の作業が、あれは一つのサイクルになって作業だから、穴を繰って、火薬で岩なり炭なり粉碎して、それをローダーとかで積み込む。その後、今度は新しい天井、その枠を張って。枠を張った時点で、それで一つのサイクルが終わって、それでまた次の新しい穴繰って発破と。そういうサイクルを繰り返して行って、大体掘進のときに、こういう切羽\*だったら、今日は何回発破の、これを5回ぐらい、5サイクルとか何とかいって。

でも、一番能率が上がる切羽になると、10mぐらい伸びて、10枠……10 枠張って。そうすると、その材料がどれくらいということも、ある程度計算できるから、そういうのを運んでたのがこの人たち(竹川さんたち)で、この人たちが本当、ほとんど人海戦術のように人間が、人間の力だけで運搬じゃないけどですね。だからやっぱり、きつかったと思うんですよね。

私たちの場合、もう、大体そういう作業の繰り返しで、発破、積み込み、施枠(せわく)……という繰り返しだったですからね。

